

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

科学研究費助成事業 研究成果報告書



令和 3 年 6 月 23 日現在

機関番号：27101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K13881

研究課題名（和文）LGBTQの子どもたちへの学校ソーシャルワーク実践モデルの開発

研究課題名（英文）Development of the school social work practice model to children of LGBTQ

研究代表者

寺田 千栄子（terada, chieko）

北九州市立大学・基盤教育センター・准教授

研究者番号：10713208

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,800,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究で実施した学校への調査では、わが国の学校教育現場には、スティグマ（負の烙印）をはじめとしたLGBTQの子ども達を抑圧する構造が存在し、これらが当事者のパワーの減退につながっていることが示された。加えて、当事者への調査では、パワーの減退及びエンパワーにつながる具体的な要因を抽出することができた。

ソーシャルワークの専門的価値基盤である人権、社会正義、多様性の尊重の観点から、これらの環境改善には学校ソーシャルワーク実践が必要であることを明らかにした。また、とりわけパワーの減退についてはエンパワメント理論の導入が有効であると考え、エンパワメント視点に基づく学校ソーシャルワーク実践モデルを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、学校教育現場においてもLGBTQへの関心が高まりつつある。しかし、学校教育現場における支援担当者について、各学校において学級担任や管理職を始めとして、養護教諭、スクールカウンセラーなどの教職員が協力して、当事者の心情に十分配慮した対応をしていくことが謳われており、この支援の視点はLGBTQをメンタルヘルスの観点から捉えている傾向が見られていた。

本研究により、LGBTQの子どもたちへの学校ソーシャルワーク実践モデルを示したことにより、LGBTQの子どもたちの人権の回復及びエンパワメントにつながる支援方法を提供することができた。

研究成果の概要（英文）：A survey of schools conducted in this study showed that school education sites in Japan have structures that suppress LGBTQ children, including stigmas, which leads to a decline in the power of the parties concerned. In addition, a survey of the parties was able to identify specific factors leading to power decline and empowerment.

From the perspective of respecting human rights, social justice, and diversity, which are the foundations of social work's professional values, it was clarified that school social work practices are necessary to improve these environments. In addition, we considered that the introduction of empowerment theory would be effective for the decline in power, and presented a school social work practice model based on the empowerment perspective.

研究分野：学校ソーシャルワーク

キーワード：LGBTQ 学校ソーシャルワーク エンパワメント パワー

1. 研究開始当初の背景

LGBTQ+をはじめとした多様な性の当事者はいじめの被害や自殺念慮などが高率であることが指摘されている。これらの予防や未然防止においては、学校教育環境における子どもたちや教職員による無理解や偏見などへの取り組みとともに、LGBTQ 当事者への直接支援が不可欠である。

そこで、文部科学省は2010（平成22）年度に「児童生徒が抱える問題に対しての教育相談の徹底について（通知）」を、2014（平成26）年度には、「学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査について」を発出している。しかし、各学校において学級担任や管理職を始めとして、養護教諭（学校保健）、スクールカウンセラー（臨床心理学）など教職員が協力して、児童生徒の心情に十分配慮した対応をしていくことが謳われており、この支援の視点はLGBTQ+をメンタルヘルスの観点から捉えている傾向が見られる。

他方、先行している北米では、人権配慮の視点からスクールソーシャルワーカー（以下「SSW」と記す）が中心となりLGBTQ+の子どもたちを支援している。今後、わが国の学校教育現場においても、人権配慮の視点からLGBTQ+の子どもたちへの学校支援が求められるといえる。そして、その支援に際してはSSWによる役割が重要となってくる。しかし、我が国においてLGBTQ+に対応した学校ソーシャルワークに関する研究はなされていない。本研究は、本分野での開拓的・先駆的研究である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国の学校教育環境におけるLGBTQ+をはじめとした多様なセクシュアリティの子どもたちへの学校ソーシャルワークの必要性を示し、有効な実践モデルを検討していくことにある。この研究目標を達するために、以下の五点について研究を行う。（1）わが国においてLGBTQの子ども達を取り巻く環境を明らかにする、（2）学校教育環境における支援の実態と課題を示す、（3）当事者が実際に学校教育環境においてどのような困難を抱えていたのかを示す、（4）学校ソーシャルワークの必要性を検討する、（5）有効な支援モデルを検討する。

3. 研究の方法

（1）先行研究の文献調査

わが国のLGBTQ+の子どもに関する先行研究の動向を整理した。また、海外のLGBTQ+の子供への学校ソーシャルワークに関する研究を整理した。

（2）学校におけるLGBTQの子どもへの支援状況に関する全国調査

国内の小・中・高校におけるLGBTQ+の子どもたちへの支援状況を把握するために、量的調査を行った。調査時期は平成29年6月～7月である。対象は養護教諭とし、無作為に抽出した3000校（小、中、高校1000校ずつ）に質問紙調査を実施し、支援状況を検討した。分析については、SPSS 24.0 および SPSS Text Analytics を使用し、統計的処理を行った。

（3）当事者へのインタビュー調査

当事者の支援のニーズを把握するために、インタビューによる質的調査を行った。すでに成人しているLGBTQ当事者12名を対象とし、学齢時期においてどのような支援が必要であったかについて調査した。時期は平成29年7月～11月である。データ分析は、Nvivoを活用した内容分析を行い当事者のニーズを検討した。

（4）学校ソーシャルワークの必要性に関して検討

量的・質的調査の結果を踏まえ、わが国での学校ソーシャルワークの必要性に関して検討する。

（5）わが国におけるLGBTQの子どもたちへの学校ソーシャルワーク実践モデルの作成

エンパワメント視点を基盤とした学校ソーシャルワーク実践モデルを開発した。

4. 研究成果

（１）先行研究の検討

わが国において、LGBTQ+の子ども達の支援に関する先行研究は多くない。ここでは支援を広くとらえ、次の四領域について先行研究を検討した。第一に精神医学に関する領域、第二に心理的支援に関する領域、第三に人権に関する領域、第四に学校教育に関する領域と分類しその動向と到達点を整理した。先行研究の課題から、LGBTQ+の子どもたちを取り巻く学校教育環境の整備は極めて重要な課題であることが示された。これらを踏まえると個と環境の交互作用に働きかける学校ソーシャルワークの使命は大きなものと考えられたが、わが国において社会福祉分野でのLGBTQ+研究は皆無であり、学校ソーシャルワークに関する支援研究は全く行われていない実態があった。他方、LGBTQの子どもたちが安全な環境下でないことに対して、北米では学校におけるソーシャルワークに関する研究も行われていた。また、文化背景の近い台湾には実際に視察に行った（本来は東アジアを対象とし、韓国等にも視察に行く予定であったが、COVID19の影響で断念し文献研究にとどめた）。その結果、東アジアにおいても、LGBTQ+の子どもたちへの学校ソーシャルワークの実践は体系的に実施されていない状況が明らかとなった。本研究はこの課題に対して、開拓的先駆的に取り組む研究であると考えた。

（２）学校におけるLGBTQの子どもへの支援状況に関する全国調査

回答は高等学校が最も多く 294 名（35.5%）、次いで小学校が 277 名（33.5）%、中学校が 295 名（30.7%）であった。本文中において以下の項目の調査結果について明記している。

- ・LGBTQ に関して養護教諭自身が行っている内容
- ・所属する学校でのLGBTQに関する教員研修の実施状況
- ・LGBTQ（と思われる）の子どもからの相談受理経験とその内容
- ・相談に対して実際に行われた支援内容
- ・所属する学校のLGBTQへの理解状況とその理由
- ・今後、学校教育現場に求められる支援

子どもたちは学校生活の諸場面や心理面、恋愛や異性への感情に関することを多く相談しており、学校教育現場では相談内容に対して個別に対応していることが明らかになった。また、養護教諭は物理的な配慮に止まらず校内の体制づくりや教職員の理解促進・意識統一が必要であると考えていた。

加えて、学校教育現場にはスティグマをはじめとした子ども達を抑圧する構造が存在し、これらがパワーの減退につながっていることを示した（図1）。また学校教育現場の課題として、①早期支援が行われていない、②学校教育現場は当事者にとって相談しやすい環境にない、③養護教諭は学校全体への働きかけを積極的にできていないことを明らかとした。

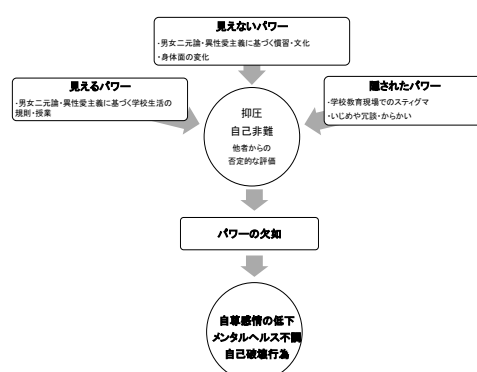


図1. LGBTQ+の子どもたちのパワーの減退をもたらす構図

これらの解決においては「個と環境の交互作用」に働きかけていくことが重要であり、スクールソーシャルワーカーの活用の可能性について示した。ソーシャルワークの専門的価値基盤である人権、社会正義、多様性の尊重の観点から学校ソーシャルワーク実践が必要であり、とりわけパワーの減退についてはエンパワメント理論の導入が有効であると考えられた。

（３）当事者へのインタビュー調査

調査協力者 12 名のセクシュアリティに関しては、トランスジェンダーやノンセクシュアルなど性自認に関するものが 7 名（58.3%）、ゲイ・レズビアン・バイセクシュアルなど性的指向に関するものが 5 名（41.7%）であった。

インタビュー調査の分析の結果、学校教育環境に介在する、LGBTQ の子ども達のパワーの減退につながる五つの要因（【LGBTQ に不寛容な仕組み】【ショックな出来事】【他者の無理解な言動】【居場所が無い】【否定的な自己イメージ】）とエンパワーを促す四つの要因（【LGBTQ に寛容な仕組み】【居場所の存在】【他者の受容的な態度】【肯定的な自己イメージ】）とその構造が明らかになった。

子どもたちのエンパワメントに関与していく SSW は、これらのパワーの減退のプロセスを理解した上で、これらを取り除いていく働きかけを行っていくことが望ましいと考えた。

（４）学校ソーシャルワークの必要性に関して検討

量的調査及び質的調査において、わが国の学校教育環境は LGBTQ+ の子どもたちにとってパワーの欠如（powerlessness）へとつながりやすい環境であることが示された。また、この状況から回復しパワーを増強していくことが望まれる。つまり、エンパワメント（empowerment）が行われていくことが重要である。ソーシャルワーカーが社会正義を価値基盤にする専門職であることを鑑みると、LGBTQ+ の子ども達が権利を奪われ抑圧されている状況に対して、支援を行っていくことは責務であると考えられる。とりわけ、エンパワメントは、人種、年齢、民族、性別、障害、性的指向を理由として権利を奪われた人々のような、弱い立場にあり社会的に脆弱な集団と協働する際の戦略であり、同時に目標となるとされる。従って、わが国の学校教育現場における環境の改善においては、エンパワメント視点でソーシャルワーク実践を行っていくことが望ましいと考える。本研究では、エンパワメントを「人びとが自分たちの生活状況を改善するために必要な、個人的、対人的、政治的パワーを高めるプロセス」（Gutierrez）と定義し、その必要性について検討した。

学校には多様なパワーが存在し、これらのパワーの働きかけの方向性によって、当事者のエンパワーを促したりや、パワーの欠如につながっていると考えられる。この関係を示したものが、図 2 である。

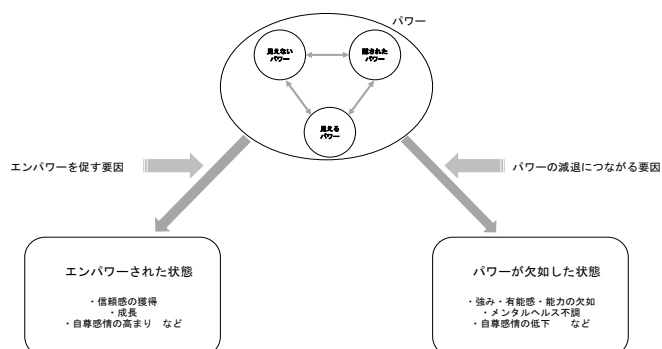


図 2. LGBTQ+ の子どもたちを取り巻くパワーの関係図

（５）わが国における LGBTQ の子どもたちへの学校ソーシャルワーク実践モデルの作成

エンパワメント実践の過程におけるソーシャルワーカーの役割について Gutierrez らは「個人が自分の状況を変える能力を開発するための支援をすること」としている。つまり、ソーシャルワーカーは、パワーの欠如し権利を奪われ抑圧された人々と協働することが主たる任務である。

これらの活動は、クライアントと協働的に行われるものである。わが国の学校教育環境における支援課題と照らし合わせ検討された SSW の役割を次に示す。

- ①学校教育現場において LGBTQ+ の子ども達のアドボカシーを行う実践者としての役割
- ②子ども達が相談しやすい環境を作る実践者としての役割
- ③子ども達の居場所づくりを行う実践者としての役割
- ④学校内外の支援体制を構築する実践者としての役割
- ⑤教員に対する支援を行う実践者としての役割

わが国における LGBTQ+ の子どもへの学校ソーシャルワーク実践においては、①環境に働きかけること、②当事者のストレングスを活用すること、③異文化に対応する能力が重要であると考えている。加えて、SSW に必要な具体的な知識や技術、態度などの専門性を本文に明らかにしている。SSW はこれらの技術や知識・専門性を備えておくことが望ましい。

これらの役割や基本的技術を前提とし、SSW は本研究で明らかとなったパワーの減退のプロセスを理解した上で、これらを取り除いていく働きかけを行っていくことが必要である。加えて、エンパワーをもたらし要因が促進されるような環境を作っていく必要がある。そこで、SSW の価値基盤である子どもの人権と社会正義、多様性の尊重に基づき検討した支援内容を表1に示した。なお表は、Gutierrez ら(1998)が示すエンパワメント実践における基本的な問題解決のための活動を参考に検討した。

表4. エンパワメント視点に基づく学校ソーシャルワーク実践モデル

介入の次元	ミクロ		メゾ	マクロ
焦点	第1次元 ニーズ・資源のアセスメント	第2次元 教育 問題克服のためのスキルの習得 セルフヘルプ	第3次元 支援の構築 システムのアセスメント	第4次元 ソーシャル・アクション 政治的(マクロ)変化
基本的な参加者	当事者・家族・SSW	当事者・家族・LGBTQのグループ(校内)・SSW	当事者・家族・LGBTQのグループ(校外)・問題に焦点を当てたネットワーク	当事者・家族・LGBTQのグループ(校外)・地域・全国団体
基本的な変革の目標	当事者・家族	LGBTQの子どもの状況・共通の問題解決	学校・学校・当事者・共通の問題	LGBTQのグループ(校外)・地域・法律・政策・市民社会・報道関係・国
具体的な支援内容	制約やトラウマなど、当事者のニーズに合った活動的介入を行う		男女二分論、異性愛主義を前提としない多様な性を含むような組み分け	男女二分論、異性愛主義によるものなど、多様な性を含むような組み分け
	SSWと当事者との関係構築を開始する		LGBTQの子どもたちが安心できる場を校内に作る	当事者たちが安心できる場をつくる
	LGBTQに関して情報を得ることを通じて、当事者の自己肯定力を高まりを促す		LGBTQに関することを授業で取り入れるなど、周囲の知識を高める機会を設定する	
	当事者が自分を偽らずありのままの自己表現できる場・存在を認める		理解啓発を図ることにより、周囲が適切な対応を取れる手法を提供する	
	性のありようやそのニーズの個人差について周囲に理解促進を図る		アライであることを発信するなど、当事者にとって心の拠り所となりうる存在を増やす	
			LGBTQに関する教育、啓発を行う	

表1. エンパワメント視点に基づく学校ソーシャルワーク実践モデル

【参考文献の一部】

Gutierrez, L.M. (1990) Working with women of color: An empowerment perspective. Social Work,35(2),149-153.

Gutierrez, L.M. & Ortega ,R.(1991) Developing methods to empower Latins : The importance of groups. Social Work with Groups,14(2),23-43.

VaneKlasen,L., & Miller,V.,(2002)Power and empowerment, PLA Notes,43:39-41.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 寺田 千栄子	4. 巻 15
2. 論文標題 エンパワメント視点に基づくLGBTQ児童生徒への学校ソーシャルワーク実践モデル	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学校ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 33-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 寺田千栄子	4. 巻 13
2. 論文標題 学校教育現場におけるLGBTQの子ども達への相談・支援に関する研究－養護教諭へのアンケート調査からの考察－	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 学校ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 寺田千栄子	4. 巻 59-4
2. 論文標題 LGBTQの子ども達へのエンパワメント視点に基づく学校ソーシャルワーク実践の必要性－養護教諭へのアンケート調査結果からの考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 社会福祉学	6. 最初と最後の頁 67-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 寺田千栄子	4. 巻 12
2. 論文標題 わが国におけるLGBTQの子どもたちへのソーシャルワーク支援：学校ソーシャルワーク実践の必要性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 学校ソーシャルワーク研究	6. 最初と最後の頁 2-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 寺田千栄子
2. 発表標題 学校教育環境における LGBTQの子ども達のパワーの減退をもたらす構造について - 当事者へのインタビュー調査からの考察 -
3. 学会等名 日本学校ソーシャルワーク学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 寺田千栄子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 212
3. 書名 LGBTQの子どもへの学校ソーシャルワーカーエンパワメント視点からの実践モデル	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------